

人間情報学専攻

多彩なテーマで院生と教員が活発に議論

詳しい情報はコチラ！



専攻の紹介

人間情報学研究科は教養学部を母体とする大学院であり、ダイナミックに変容する現代社会をさまざまな切り口から捉え、学際性の高い実践的教育研究をおこなっています。

博士前期課程の大学院生は、社会情報（社会学、教育学、人文地理、地域構想系）、行動情報（心理学、教育工学、体育学系）、生命・情報（コンピュータ科学、数学、生体情報学、情報科学、環境科学系）のいずれかを主たる研究領域とし、また自然科学系、人文科学系の諸科学から、基礎的な分野についての幅広い支援を受けて研究をおこなっています。その核となるのは人間情報学演習であり、多彩な研究分野のスタッフからなる教員チームが指導にあたり、学際的な研究を実のあるものにしていきます。

博士後期課程では主として人間情報学演習と論文指導により研究を深めますが、ここでも複数の教員からなるスタッフが様々な角度から学際的な指導をおこないます。

本研究科のもうひとつの特色は、社会人にも広く門戸を開いている点にあります。社会の現場における様々な課題を研究テーマとし、より実践的な研究がおこなわれます。そのため、現役の社会人が履修しやすいよう土曜日を活用するなど、柔軟な時間割が組まれます。院生には大学、研究所、学校等に在職している研究者や教育者などに加え、会社員や公務員、さらには現役を退いてから入学した方や主婦なども含まれるため、演習などでは院生と教員が多様な視点から活発な議論を展開しています。

教員からのメッセージ



いながき 稲垣 忠 教授
教育工学担当

私たちが暮らす社会が「情報社会」と呼ばれるようになって40年以上が過ぎています。現在生きている私たちの多くは、人生の半分以上を情報社会で過ごしています。その割には、「情報」と付くとコンピュータを高度に駆使した難しいもの、特別な専門性をもった人たちだけのもの、といった空気を未だに感じます。「人間情報学」は、この人と情報との関わり方に着目した学際的な研究領域です。

学際的であるとは、特定の専門分野に閉じないで研究することを意味します。情報社会に私たちが馴染みきれない原因の1つに、新たな情報技術が次々と開発されていることが挙げられます。たとえばChat GPTに代表される生成AIが急速に発展しています。「働き方改革」の推進のようにプラスの影響もあれば、雇用を奪うのではないかとというリスクもあります。生成された情報に対する著作権やAIが学習するデータの安全性、AIと対話する際の人間の心理、AIを活用するためのリテラシーとその教育方法など、人間が情報技術と付き合っていくには、さまざまな社会課題の解決が必要です。その際、AIという情報技術の知識と同じくらい重要なのは、経済、社会、心理、教育といった専門分野の知見です。一方で専門分野の課題を解決するために情報技術を活用する場合もあります。専門分野の知見に加えて情報技術を理解し、活用できることが求められます。

私が専門とする「教育工学」は、それ自体が教育と工学による学際分野です。よりよい授業をつくるために工学的な開発手法を採用したり、その検証に心理学や社会調査の手法を組み合わせたりします。不登校の児童生徒に対してメタバースを活用した効果を検証したり、SNSのトラブルへの対処法や適切な態度、判断力を育成する方法の開発に取り組んだりします。人間情報学研究科の多様な専門分野の教員との交流を通して、教育工学の学際性をさらに拡張した研究に取り組んでいます。「情報」と「人間」を切り口に多様な学問が集うのがこの研究科の魅力です。

人間情報学研究科の受験を志す皆さんにとって、学際性の幅が広過ぎて不安に思う方もいるかもしれません。行動情報学、社会情報学、生命・情報学の3領域から、自身の研究テーマにもっとも近い領域を見つけてみましょう。そこを足場に、多くの教員や他分野の大学院生との交流・議論を楽しんで下さい。皆さんらしい学際的な形が、新たな研究領域を開拓していくことを期待しています。

大学院生からのコメント



わかばやし まさこ 若林 雅子さん
人間情報学専攻 博士前期課程2年

私は現在、保護者向け情報リテラシーについて研究をしています。

子どもたちは1人1台端末を持ち、日々活用しています。保護者が端末を用いた学習について理解し子どもたちを安心して見守ることができるようになれば、さらに端末活用が進むのではないのでしょうか。大学院を志したきっかけは、保護者である私自身のこのような疑問からでした。

20年以上前に東北学院大学教養学部教養学科情報科学専攻を卒業した後、就職しネットワークエンジニアとして数年勤務しました。育児のために専業主婦の期間を経て、再び仕事をはじめました。保護者として我が子を見守りつつ、仕事を続けながら、さらに大学院へ通うことに対しては入試の時点から様々な不安がありました。

東北学院大学大学院は社会人入試の制度も充実しており、社会人経験に主婦も含まれることは、仕事のブランクが長かった私の大学院への挑戦を後押ししてくれるものとなりました。また、長期履修の制度は、万が一家庭・仕事・大学院生活のバランスをとることが難しくなっても通い続けることができるという安心感につながりました。

入学後も、履修や大学院生活について、担当教員の稲垣教授をはじめとした諸先生方、職員の方々とコミュニケーションをとり不安を一つ一つ解決することで、日々研究を進めることができています。大学生の時には卒業・就職することを目指していた私にとって、社会人を経験し明確な目標を持った今だからこそ、じっくりと研究に向き合えるのではないかと感じています。

人間情報学研究科は、私のような教育工学について研究する大学院生だけではなく、情報科学・日本語教育学・心理学・社会教育学など、さまざまな分野を研究する仲間が集まっています。また、大学卒業後に進学した大学院生から、定年を迎えさらに研究を続ける社会人大学院生まで幅広い年代と関わるができます。

講義は先生と少数の大学院生で行われるため、様々な視点・それぞれの経験から問題を見ることで活発な意見交換が行われます。また、講義内で発表する機会も多く、自身の考えを先生や他の分野を研究する大学院生に伝えるにはどうしたらいいのか、質問にはどのように答え今後の研究に活かしていくかなど、常に試行錯誤を繰り返しています。その経験は学会発表にも活かされていると実感しています。

私の大学院生活は、新しい五橋キャンパスから始まりました。先生方・仲間とともに恵まれた環境の中で切磋琢磨しながら、さらに研究を進めていきたいと思っています。



研究領域／研究分野

行動情報学領域

- ・心理に関わる分野
行動情報心理学、適応行動学、社会心理学、組織心理学、知覚心理学、認知心理学、健康行動学、臨床健康心理学、教育工学
- ・スポーツに関わる分野
スポーツ科学、スポーツ生理学、健康体力統計学、運動免疫学

社会情報学領域

- ・社会に関わる分野
応用社会学、情報社会学、社会教育学、社会情報システム論、生活情報システム論、社会統計学
- ・地域に関わる分野
地域情報学、地域社会論、地域政策論、地域産業論、地域福祉論、多文化共生論、日本語教育学

生命・情報学領域

- ・生命とコンピュータ科学に関わる分野
応用情報学、インターフェイス、コンピュータシステム演習、マルチメディア情報処理、コンピュータネットワーク、生体情報学、生体情報処理系、記号処理論、言語情報処理論、計算と論理、数理情報科学、フラクタル、複雑系の科学、数理統計学、代数学、幾何学、データベース
- ・環境に関わる分野
大気・水環境論、地表環境論、生態学、地球環境史、地球環境論

担当教員・研究テーマ

産業・組織心理学

従業員の精神的健康とモチベーション

井川 純一

代数幾何学

代数曲面の構造と不変量の研究

石田 弘隆

人文地理学

都市や産業の地域構造に関する研究

岩動 志乃夫

地形学

過去約2万年間の地形発達史、高解像度地形情報を用いた地形変化解析

伊藤 晶文

情報工学

コンピュータ設計などを支援するソフトウェア研究

伊藤 則之

教育工学

情報技術を用いた授業設計、学習環境のデザインに関する研究

稲垣 忠

確率論

作用素論を用いたエルゴード理論の解析

岩田 友紀子

発達臨床心理学、感情・人格心理学

評価懸念、感情制御、災害とメンタルヘルス

白倉 瞳

人文地理学

東南アジア、特にジャワ農村の農村生計と自然資源管理についての研究

遠藤 尚

社会福祉学、障害者福祉、NPO・ボランティア活動

わが国における福祉市民活動の現状と課題

大澤 史伸

応用健康科学、発育発達学

子どもの生活習慣の評価とそのヘルスプロモーションに関する研究

岡崎 勸造

複素解析学

正則関数の反復合成による複素力学系

片方 江

認知心理学

日常行動の認知心理学的分析

加藤 健二

臨床心理学

不安障害・うつ病に対する認知行動療法

金井 嘉宏

計量社会学

不平等・社会階層に関する計量的研究

神林 博史

理論言語学

生成文法理論に基づいた自然言語の統語論と意味論

岸 浩介

文化社会学

メディア文化・産業の調査研究

小林 信重

教育哲学

教育の意味と起源に関する人間学的研究

紺野 祐

ウェブ情報学

ウェブを用いたコミュニケーションシステムの応用

坂本 泰伸

運動免疫学

運動やストレスが免疫機能に及ぼす影響と健康

坂本 譲

農村社会学、理論社会学

①農山村における高齢者の生活実態に関する研究
②贈与論の理論的視点からの地域社会論

佐久間 政広

視覚心理学

人間の奥行知覚の解明

櫻井 研三

数論

楕円曲線の数論

佐藤 篤

日本語教育学

外国につながる子どもの言語教育

佐藤 真紀

臨床健康心理学

慢性疾患を有する者の心理に関する研究

東海林 渉

複雑系工学

自律分散システム論、群ロボットシステム

菅原 研

福祉社会学

日本における外国人ケアワーカーの介護労働と地域生活に関する研究

菅原 真枝

知識情報システム学

分散環境を活用した創造性支援

杉浦 茂樹

数理社会学

集合行動、メディアコミュニケーションのネットワーク分析

鈴木 努

家族社会学

既婚女性の出生・就業行動

仙田 幸子

スポーツ科学

健康体力統計学、身体活動および運動パフォーマンスの測定・評価方法の研究

高橋 信二

実世界情報学

エージェンツ指向IoT(Internet of Things)システムの研究

高橋 秀幸

メディア情報学

パターン認識技術を用いた情報通信システムの研究

武田 敦志

スポーツ科学

運動生理学、特殊環境下における運動時の呼吸循環機能の研究

千葉 智則

生物情報学、感覚受容

生物における情報の受容機構の解明

土原 和子

教科教育学

多文化共生を目指すシティズンシップ教育についての理論的研究

坪田 益美

発達心理学

大学生のキャリア選択における動機づけの役割

萩原 俊彦

社会教育学

公民館経営診断技法の研究

原 義彦

日本語教育・日本語学

日本語音声教育に関する研究

房 賢嬉

臨床発達心理学

攻撃性、衝動性等の発達特性の理解と支援者支援

平野 幹雄

植物生態学・景観生態学・環境教育

生態系評価に基づく"ヒトと自然の持続可能なかわり"に関する研究

平吹 喜彦

社会心理学

交渉における認知や感情の働き

福野 光輝

関数方程式論

微分方程式の解の挙動と構造の解明

星野 真樹

生物情報科学

神経ネットワークによる情報処理、情報表現

牧野 倭也

地域福祉学

財政分析による民生費を中心とした市町村合併効果の測定

増子 正

生体情報学

生物音響学

松尾 行雄

知能情報学

自然言語処理技術のウェブサービスへの応用

松本 章代

天文学

X線天文衛星を利用したブラックホールなど高エネルギー天体の観測

村上 弘志

哲学

アリストテレスを中心としたギリシア哲学、現代分析哲学

文 景楠

自然地理学

自然環境の保護・保全

目代 邦康

経済地理学

先端技術産業の地域的立地についての研究

柳井 雅也

津波工学、海岸工学

津波発生リスクと地域の脆弱性評価に関する研究

柳澤 英明

アジア経済論

アジア諸国における雇用創出に関する研究

楊 世英